

「愛知県におけるアレルギー疾患の実態調査」報告

研究計画

倫理番号：HM19-272（藤田医科大学）

回答者数：11,126名

【実施期間】

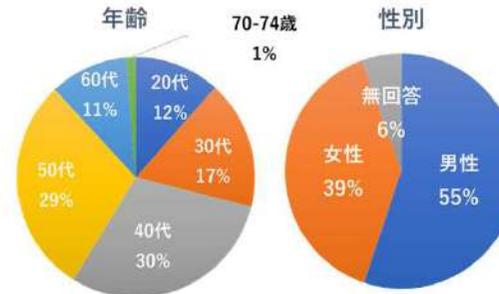
2020年2月から7月の6か月間

【対象】

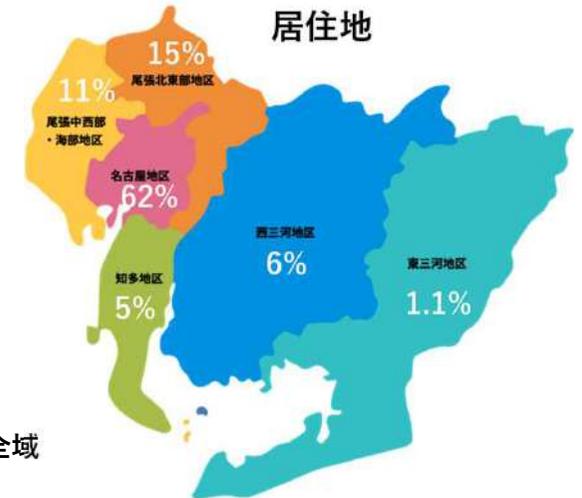
セントラルクリニック（愛知県名古屋市）で健康診断を受ける者

【選択基準】

- 本研究の参加にあたり、紙媒体で配布した説明文書を読み、理解を得た上、本人の自由意志による文書同意が得られた患者
- 同意取得時に20歳以上75歳未満の患者

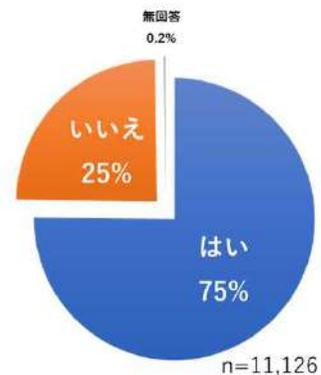


- 年齢、性別、居住地は多様で、愛知県全域を反映する構成と考えられた。



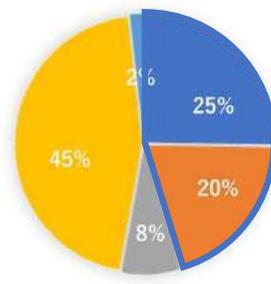
アレルギー有症率と治療の実態

アレルギーの有無

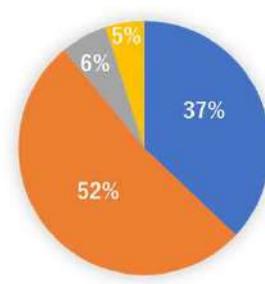


- 受診経験は約半数のみ。
- 治療効果の満足度は低い。

治療の選択



治療の満足度

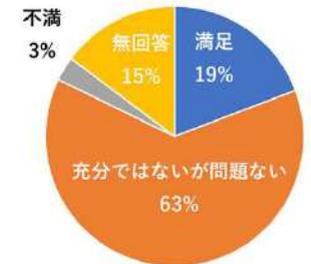


アレルギー疾患に関する情報の入手経路

アレルギー疾患の情報源 重複あり

医療関係者から	5,466
インターネット	6,922
書籍	979
講演会やセミナー	150
知人	2,409
その他	591

情報の満足度



- 医療機関、インターネットを通じて、治療満足度を高められる情報提供が必要。

通院した場合の疾患毎の治療に対する満足度（比率）

疾患	期待通り	期待通りではない
アトピー性皮膚炎	5 9	4 1
気管支喘息	7 4	2 6
目のアレルギー	7 6	2 4
アレルギー性鼻炎	6 3	3 7
じんましん	6 8	3 2
食物アレルギー	6 0	4 0

- 医療機関の受診は治療満足度を上げる。
- 疾患毎に満足度に偏りがある。

- 愛知県において、アレルギー疾患の罹患を疑う率は約75%。
- 医療機関を受診していない場合は多く、適切な治療を受けられていない人も多い。
- 医療機関を受診することで治療満足度は上がるものの、期待通りの効果を感じられていない人も少なくない。
- 病診連携による医療提供体制を充実させ、患者が適切な時期に重症度に合わせた治療を受けられる（専門施設にアクセスできる）ようにすること、診療に関する情報提供を充実すること（啓発すること）が必要である。（2022年 日本アレルギー学会にて発表済み）